

# きそがわ福祉会だより

地域の中でともに育つ事業所めざして

2017年5月15日発行 No.100



きそがわの流れ 絶えることなく・・・

多くのみなさんに支えられて  
100号を迎えることができました

発行：社会福祉法人きそがわ福祉会

〒493-0006 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り12番地3

電話 0586-86-3960 FAX 0586-86-3937

## きそがわ福祉会だより 100号をむかえて

今年是小規模作業所時代から通算35周年となります。この節目の年に、「きそがわ福祉会だより」も第一〇〇号を発行することになりました。これまで、きそがわ福祉会だよりをお読みいただき、様々な形で当法人を支えて頂いた皆様方に心からお礼申し上げます。

きそがわ福祉会だよりは、現在約一六〇〇人団体含むの方々に配布させていただいております。送付先は一宮市内を中心として周辺の市町の方が多数を占めていますが、北は北海道、南は沖縄にいたる広域にも送付致しております。この約一六〇〇人の方々は、私達の大切な宝です。お一人お一人が私達の大切な拠点であり、そこから又拠点を広げさせていただけるような形で、これからも益々大きな輪を創り上げて参りたいと思っております。

今回の広報一〇〇号発行を機に、改めて「障害者権利条約を地域のすみずみに」というスローガンを肝に銘じて、

障害のある人も無い人も、共に普通に自分が選んだ地域で幸せに暮らしていけるような町づくりに貢献して参りたいと思っております。これからも変わらぬご支援の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人きそがわ福祉会  
理事長 小林金次



きそがわ福祉会の前身となる「きそがわ共同作業所」には最終年度で15名の仲間達が毎日元気に作業所に通っていました。きそがわ福祉会だより100号発行を記念して、初代からの仲間の勝田隆さんと無二の親友の内の一人の菱川一也さんから、自己紹介コメントを寄せていただきました。

### 小規模通所授産施設

### きそがわ共同作業所時代から 30年以上ずっと今も仲間

生地折り、家庭科の袋入れ、コイルほだし、廃品回収、色々な仕事をずっと続けてやっています。



今ではたくさんの友達が  
ができ、毎日作業所での  
生活を楽しく過ご  
しています。

勝田隆さん

長く働いているとたまには普通の会  
社で働いてみたいと思うこともありま  
した。作業のスピードは速くないが毎日  
地道にコツコツ頑張っています。

得意な仕事はコイ  
ルほだしです。

菱川一也さん



※勝田さんは、小規模通所授産施設きそがわ共同作業所の初代仲間の会(利用者自治会)会長さんで、現在もきそがわ作業所仲間の会「ひまわり」の会長さんです。

きそがわ福祉会だより100号記念 事業所と関係団体の発足の歴史  
**きそがわ福祉会のあゆみ**  
 過去の節目となったニュース等と年表で振り返る

きそがわ福祉会の前身となる「きそがわ共同作業所」に関するニュースは、「ねっこの会ニュース」として発行していました。

**記念碑**  
 きそがわ作業所の建設用地購入にあたり、地盤公積を通じて税金を支めた篠田真由美氏の功徳をここに顕彰します。  
 1993年3月21日

竣工式で篠田さんに感謝状贈呈



事業所と関係団体の発足の歴史

昭和54年	木曾川町障害者(児)を守る「ねっこの会」結成(市町合併後は障害者(児)を守る「ねっこの会」発足)
昭和57年	小規模通所授産施設「きそがわ共同作業所」開所(設置経営主体は「ねっこの会」)
平成2年	法人認可施設づくりのための土地購入(篠田様からの多額の資金援助を受ける)
平成4年	きそがわ作業所を育てる会(後の「きそがわ福祉会を育てる会」)発足
平成8年	社会福祉法人きそがわ福祉会設立後に「きそがわ作業所」開設
平成10年	きそがわ作業所第2棟づくりの会発足(後に発展的解消)きそがわ作業所第2棟完成(後に重心通園事業↓ゆうゆうに展開する)

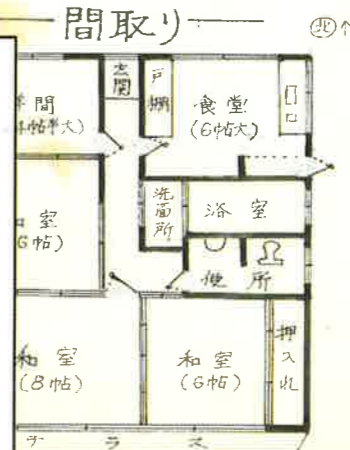
ねっこの会 ニュース (仮) ねっこの会事務局  
 1982年1月 才五号

**木曾川病院医師住宅を視察**



**場所探し。 詰めの段階へ**  
 年の瀬も押し寄せました。十一月二十六日、ねっこの会は、町立木曾川病院医師住宅を視察しました。これは、かねてより木曾川町に障害者の働く場を求めていた同会が、施設の取得にむけて、町当局・町立病院の支持を得て行なってきたものです。今年四月に作業所の開所を予定している同会に、

**対町交渉を成功**  
 一月十日に開かれたねっこの会役員会では、次のことが話しられました。  
 ①視察後の感想を出し合い、借りるという方向で意見をまとめる。  
 ②部屋の改造等の必要性、これに伴う費用の問題を話し合う。  
 ③以上の結果を早急に町当局に伝え、社会的にも活用する形(例えは公式行事)



**きそがわ作業所だより** No.1

**新しい出発**

社会福祉法人きそがわ福祉会  
 〒910-0115 富山県富山市西町1-5  
 TEL 076-83-1313  
 FAX 076-83-1314

きそがわ作業所だより No.1 1992年7月号

きそがわ作業所だより No.1 1992年7月号

きそがわ作業所だよりNo.1 1992年7月号



きそがわ福祉会だより100号記念おめでとうございます。  
 きそがわ福祉会に通過した当時20歳代だった姉も、54歳になり、現在は作業所とホームで、心身ともに落ち着いた生活を送っています。これもひとえに地域の皆様やボランティアの方々、職員の方々の温かいサポートのおかげと心より御礼申し上げます。姉も保護者も若かった入所当時から現在に至る20年に比べ、今後の20年を考えてみますと、親の高齢化に伴う健康問題、介護問題、個々のニーズにいかに対応するか、余暇をどのように過ごすか等、作業所・ホームが生活の場であるがゆえの問題もたくさんあります。今後も保護者は法人と共に協力し合い、努力しさらなる発展に取り組んでいきたいと思えます。障害のある皆さんが、季節の移ろいの中で楽しい行事をたくさん経験し心豊かに生き生きと生活できる事を願っております。

きそがわ作業所 保護者会会長 小椋節子



きそがわ福祉会だより100号記念発行おめでとうございます。  
 きそがわ福祉会の仲間の楽しい様子や活動をいつも楽しみに読ませてもらっています。第二きそがわ作業所は平成19年4月に開所しました。開所までの道のりは平坦ではなく、「みきの会」を母体として10年余り、アルミ缶回収などをして当時小学校の保護者が、子供の将来を見据えて地道に活動を行ってきた延長線上にありました。それも、きそがわ作業所を作り上げた保護者の方々のご苦労があってこそつながりと言えます。春の温かい日差しの中、イエローカラーの真新しい第二きそがわ作業所を見上げて、親子ともども高等学校卒業後の進路が決まり心底ほっとしました。現在、第二きそがわ作業所には18歳から59歳までの幅広い年代、45名の仲間が通っています。お互い助け合い、刺激し合って楽しく日常生活を送ってくれることを願っております。(平成20年3月記)

第二きそがわ作業所 保護者会会長 岩田真由美



きそがわ福祉会だより100号記念おめでとうございます。  
 朝のお決まりのルーティン後「行ってきます。」と出かけて行く後ろ姿。年齢ごとの悩みはつきませんが、高校卒業後、不安な気持ちで送り出していた頃が嘘みたいです。息子が作業所の話をすることは、ほとんどありませんが、ふっと見せる様子で楽しく過ごせているのだなと感じられうれしく思います。最近では、帰宅後「すく」さあ、お仕事しよー」と紙とペンだらけの中、書き物を黙々と始め、気分転換にアニメ動画を見て過ごす毎日です。ポーカーフェイスでなかなか曲者の息子なので、連絡ノートで見る仕事へのやる気スイッチをどんな風に行っているのだろうと興味がありますが、息子が自分らしくいられる場所にして下さっている職員さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。私も息子がこの地域の中で、穏やかに暮らしているように出来る限り、きそがわ福祉会の活動に参加協力していきたいと思えます。

ドリームセンター 保護者会会長 橋本雅美